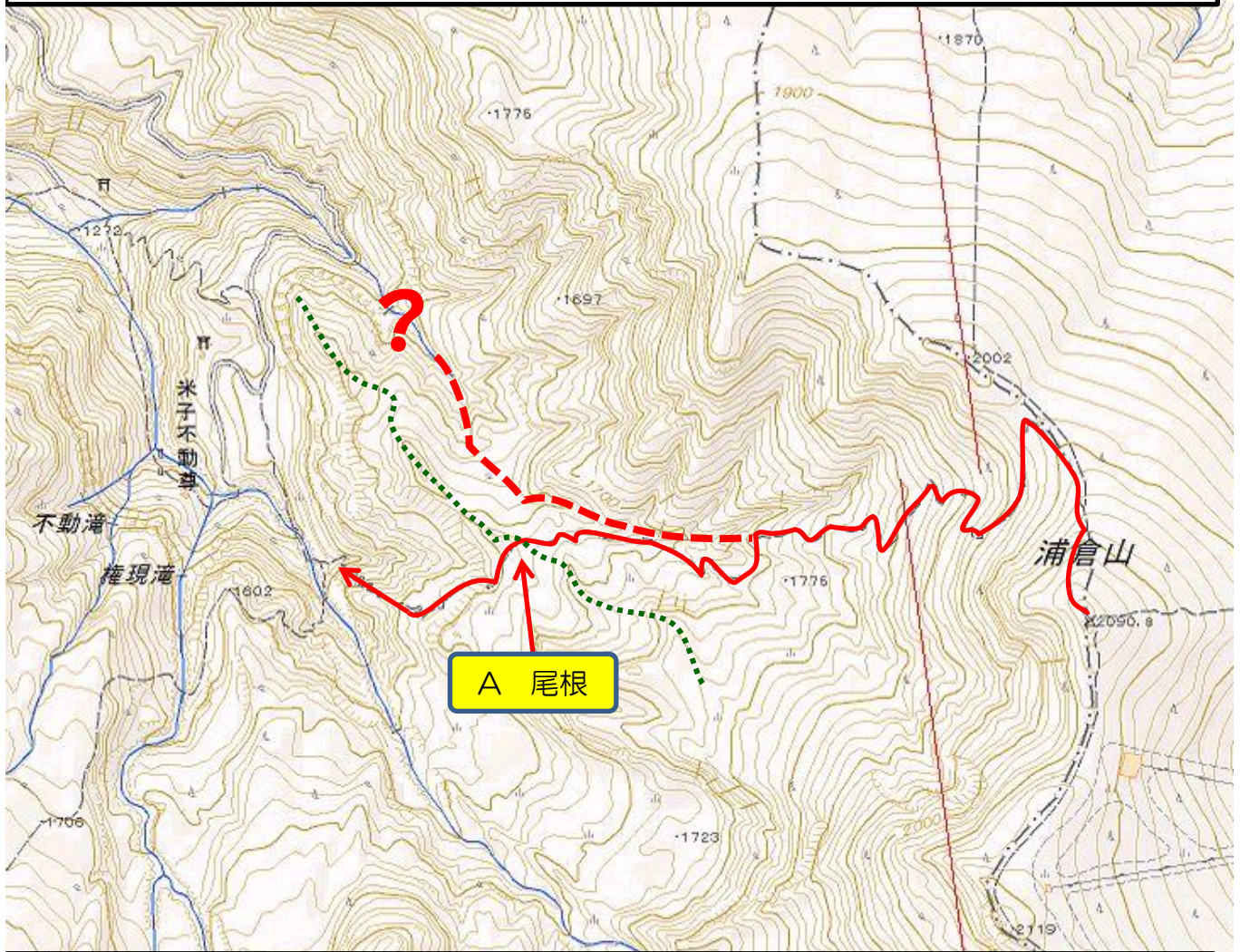


浦倉山道迷い(2013年5月)

残雪期の道迷い。浦倉山からの下山で、雪が固く足跡が分らない。午後3時すぎ、西に見えていた須坂の街並みを目指して沢沿いを進んだ。滝を迂回する際に転倒。背骨を強く打ち(骨折)、体が動けずビパークを決める。翌朝、赤テープを見つけ、少し動けるようになったので赤テープ沿いに沢を下る。釣り人を見つけ「遭難しました」と救助を求めた。



解説

同ルート下降する予定であったが、残雪期のため雪が固く、足跡が分らない。方向は、須坂の町並みを目指す、地図もコンパスも使ったことがない。里山で日帰りのため迷うことはないと思っていた。沢は危険と知っていたが、雪を避けるため沢を歩いた。

怪我をしなれば、沢沿いに下っても林道が走っている、脱出はできたと思うが、脱出の自信があつて沢を下った訳ではない。山の地形から自然と沢を下ることになったのだ。元来た道に戻るためには、A尾根を越えなければならない。道に迷っている場合、尾根を越えることが難しい。なぜならば、下りでは少しでも登ることに躊躇することがあるからだ。しかも尾根の向う側は想像がつかない。地図とコンパスを使うことができない技術で、残雪期を歩くことは、遭難の危険が増大する。道沿いに歩くのとは違う。自分で道を決めて、道がないところでも地形を読んで進まないといけない。この道迷い事例は、残雪期の里山登山に対して、よい事例となった。ぜひ、謙虚な気持ちを持ち、今後の参考にしてほしい。